

## 第1回 学校運営協議会 議事録

日時:令和8年4月21日(火) 14:00~16:00

場所:遠江総合高校 会議室

司会:山本かほり(遠江総合高校教頭)

出席者:

	学校運営協議会委員	
1	長野 了(森町役場税務課長)	
2	小倉 崇代(モリマチリノベーション代表理事)	欠席
3	熊王 康宏(静岡産業大学教授)	
4	鈴木 康之(森町商工会会長)	欠席
5	友田 裕人(サステン株式会社代表取締役)	
6	村松 幸範(森町社会教育委員会 委員長)	
7	荒井 伸明(令和8年度本校PTA会長)	

	遠江総合高校	
1	門間 秀雄(校長)	
2	長田 正文(副校長)	
3	山本 かほり(教頭)	
4	栗田 美芳(事務長)	
5	岡田 高(教務課長代理)	
6	齋木 隆文(進路課長)	
7	大橋 美紀(生徒課長)	

### 2 学習発表会参観

### 3 役員選出

授業参観後、学校運営協議会を開会した。会長及び副会長の選出について協議し、会長は昨年度に引き続き長野委員に依頼することが拍手により承認された。副会長については、欠席の小倉委員に引き続き依頼する方向で確認された。

### 4 学校経営計画

校長より、学校経営計画について説明があった。本校では「自立した爽やかな高校生」を目指す生徒像とし、挨拶、規範意識、思いやり、協働、地域社会への貢献を大切にしている。

今年度は、成果目標に「遠高16の力」を明示し、教職員が共通理解のもとで教育活動に取り組むこととした。また、生徒手帳の活用、学びの質を高める取組を進める。働き方改革については、業務の効率化だけでなく、教職員の働きがいを高め、学校全体の力の向上につなげたいとの説明があった。

### 5 学校の近況

副校長より、今年度の近況報告があった。4月7日に着任式・新任式・始業式、翌8日に入学式を実施し、定員160名に対して139名の新生を迎えた。入学後は、オリエンテーション、対面式、人間関係づくりの活動を行い、新生が高校生活に円滑に入れるよう支援している。購買については、従来の業者撤退に伴い、今年度から昼休みにセブンイレブンが入ることとなった。

## 6 国際交流・部活動・いじめ防止

教頭より、本年度は同窓会の支援を受けた第2回台湾生徒派遣研修を、8月23日から3泊4日で予定しているとの説明があった。森町や本校創設者ゆかりの地を訪問し、生徒の視野を広げる機会としたいとのことであった。

部活動では、野球部が県大会に出場し、1回戦で勝利するなど好成績を収めた。部活動運営については、県のガイドライン修正を受けて本校のガイドラインも改訂した。今年度から部活動を自由化した。2・3年生の約9割が所属しており、1年生にも加入を推奨している。

いじめ防止については、未然防止、早期発見、早期対応を基本とし、日常の見取り、面談、アンケート等を通して生徒の状況を把握し、組織的に対応するとの説明があった。

## 7 教務課・生徒課・進路課からの報告

教務課より、1年生139名のうち外国人生徒は3名であり、定員より少ない人数ではあるが、その分厚い指導が可能で、1年生は意欲的に授業に取り組んでいるとの報告があった。

系列については、2年生が4クラスとなったことに伴い、7系列から5系列へ移行した。一方で、遠高プロジェクトとして総合的な探究の時間を2・3年次で週2時間ずつ設定し、3年次生では系列を超えて探究を進めている。スタディサプリは今年度1・2年次生全員に導入し、基礎学力の定着や大学入試に向けた学習、探究学習に活用する。

生徒課より、セブンイレブンの購買参入は、生徒の挨拶や生徒会による駐車場清掃などの活動が協力につながったとの説明があった。また、5月28日に「いのちの大切さを学ぶ教育」として、交通事故で子どもを亡くした遺族を招く予定である。今年度は自転車通学許可に「ヘルメットを必ず持っている」という項目を加え、「ヘルメット全員着用の日」を設けるなど、着用のきっかけを増やしていく。

進路課より、3年次生の進路希望調査について説明があった。就職希望の割合は例年と同程度である。就職の分野は7月1日以降の求人票を見ながら生徒が決定していくため、今後変動する可能性がある。

## 8 協議等

ヘルメット着用について、委員から、高校生にとって着用しにくい面があるのではないかとの意見があった。生徒課からは、「ヘルメットデー」を設け、着用の機会を増やし、自然にかぶる流れをつくりたいとの回答があった。校長からは、着用者は増えている印象があり、県でも高校生への義務化に向けた検討が始まっているとの補足があった。

進路については、4年制大学進学希望者が少ない理由について質問があり、進路課からは、家庭の経済的事情が影響している可能性があり、費用面で断念する家庭もあったため、マネープラン講座を実施しているとの説明があった。

授業参観については、「遠高16の力」が教育活動とつながっている点、探究の時間で個人やチームで考える学びが行われている点、社会で通用する手法を学んでいる点が評価された。また、教員と生徒の適度な距離感、双方向の授業、グループワークの充実、生徒が落ち着いて学ぶ姿についても好意的な意見があった。

地域活動については、次郎柿の剪定や読み聞かせなどを通して、生徒が主体的に関わろうとする姿が見られるとの発言があった。生徒が自分で考え、質問し、当事者として活動に向き合う姿から、学校全体の教育の成果が感じられるとの意見があった。同窓会役員にも生徒の探究発表や活動を見る機会を設けてほしいとの要望もあった。

文化祭については、卒業生の参加条件の緩和について検討して欲しいという意見があり、校長から、生徒課で前向きに検討しているとの回答があった。

## 9 閉会・その他

校長より、探究学習は発表資料を作ることがゴールではなく、次の課題を発見し、自分の世界を広げることが大切であるとの説明があった。その力を発揮する場として地域の力が大きく、次郎柿の剪定、あじさい寺、あじさいサミット、駅や役場、浜信、生け花など、地域が教室となり、生徒が力をつけているとの話があった。

一方で、活動を支える教員は異動するため、学校だけで継続することが難しい面もある。今後も地域から声をかけてもらい、学校と地域が連携して生徒の学びを支えていきたいとの依頼があった。

その他、自転車点検について、年度末に点検へ出すと時間がかかり不便であるため、時期や方法を工夫できないかとの意見があり、校長から、生徒課で検討するとの回答があった。

今後の学校運営協議会について、2回目以降は学校行事に合わせて実施する予定である。第2回は文化祭の校内発表、第3回は体育大会、第4回は探究学習の発表会に合わせて設定されている。

最後に教頭より、長時間にわたる参加への謝意が述べられた。多くの称賛や前向きな意見を教職員にも伝え、今後の教育活動に生かしていきたいとの言葉があり、第1回学校運営協議会を終了した。